

《担当者名》○松尾淳司 山崎智弘

【概要】

医動物学では、ヒトに疾病を引き起こす寄生虫および衛生動物を対象とする。寄生虫感染症は開発途上国などにおいては、未だ主要な感染症であるが、衛生環境の改善に伴い、かつて流行していた土壌媒介性の寄生虫感染症は大きく減少した。そのため、今日の日本において寄生虫感染症は過去のものと思われがちであるが、決して無くなったわけではない。むしろ、一部の寄生虫感染症では増加してものも認められる。また、衛生動物は単に疾病を引き起こすだけでなく、ベクターとして、あるいは食品衛生などの点で問題となっている。そこで本講義では、寄生虫の分類、形態、感染経路、病態、および検査法について学ぶとともに、ヒトに病害を引き起こす衛生動物の生態について学ぶ。

【学修目標】

- 1) 臨床検査に必要な知識と技術を習得するために、寄生虫検査学の概要を理解する。
- 2) 医動物学で対象となる動物の分類を説明できる。
- 3) 原虫類の感染経路、病態、検査法を説明できる。
- 4) マラリア原虫の感染経路、病態、検査法を説明し、その鑑別点を説明できる。
- 5) 蠕虫類の感染経路、病態、検査法を説明できる。
- 6) 寄生虫検査法の概要と選択の基準について説明できる。
- 7) 衛生動物の生態およびヒトへの病害を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	医動物学総論  原虫総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医動物学の概要</li> <li>・寄生虫の分類</li> <li>・寄生虫の宿主適応機構と免疫回避機構</li> <li>・寄生虫感染の疫学</li> <li>・原虫の分類・形態・生理</li> </ul> 教科書：p3-13	松尾淳司
2	腸管寄生アメーバ 腸管寄生鞭毛虫 腸管寄生孢子虫 腸管寄生繊毛虫 泌尿器寄生鞭毛虫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤痢アメーバと大腸アメーバ</li> <li>・ランブル鞭毛虫</li> <li>・クリプトスポリジウム</li> <li>・大腸バランチジウム</li> <li>・腔トリコモナス</li> </ul> 教科書：p14-28	松尾淳司
3	マラリア原虫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マラリアの歴史・分類・病態・検査法</li> </ul> 教科書：p44-52	松尾淳司
4	組織寄生アメーバ 組織寄生鞭毛虫 組織寄生孢子虫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由生活性アメーバ</li> <li>・トリパノソーム、リーシュマニア</li> <li>・トキソプラズマ</li> </ul> 教科書：p24-25、p29-43	松尾淳司
5	蠕虫総論 腸管寄生線虫 腸管寄生糸虫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蠕虫の分類・形態・生理</li> <li>・回虫、蟯虫、鉤虫、東洋毛様線虫、糞線虫、鞭虫</li> <li>・日本海裂頭糸虫、無鉤糸虫と有鉤糸虫、小形糸虫と縮小糸虫</li> </ul> 教科書：p64-98、p128-141	松尾淳司
6	組織寄生線虫  組織寄生吸虫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋毛虫、バンクロフト系状虫とマレー系状虫、</li> <li>・回旋系状虫</li> <li>・肝吸虫と横川吸虫、肝蛭、ウェステルマン肺吸虫</li> <li>・日本住血吸虫、マンソン住血吸虫、ビルハルトツ住血吸虫</li> </ul> 教科書：p92-99、p102-123	松尾淳司
7	幼虫移行症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫移行症とは</li> <li>・イヌ・ネコ回虫、アニサキス、広東住血線虫、</li> <li>・犬糸状虫、顎口虫</li> <li>・宮崎肺吸虫、マンソン裂頭糸虫、エキノコックス</li> </ul> 教科書：p68-77、p88-95、p114-115、p132-139	松尾淳司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	衛生動物学 寄生虫検査法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダニの分類と媒介動物としての役割</li> <li>・昆虫の分類と媒介動物としての役割</li> <li>・糞便検査法</li> <li>・血液検査法</li> </ul> 教科書：p144-173、p188-195	松尾淳司
9 ) 11	蠕虫の観察  衛生動物の観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回虫、鉤虫、鞭虫、蟯虫、旋毛虫</li> <li>・肝吸虫、横川吸虫、肺吸虫、住血吸虫</li> <li>・日本海裂頭条虫</li> <li>・無鉤条虫、小形条虫、縮小条虫、エキノコッカス</li> <li>・ダニ、ノミ</li> </ul> 教科書：p64-173	松尾淳司 山崎智拡
12 ) 14	原虫の観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメーバ</li> <li>・トリコモナス、ランブル鞭毛虫</li> <li>・トリパノソーマ、リーシュマニア</li> <li>・マラリア原虫</li> <li>・トキソプラズマ、クリプトスポリジウム</li> </ul> 教科書：p12-53	松尾淳司 山崎智拡
15	まとめ	寄生虫形態観察のポイント	松尾淳司

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

定期試験 70% 課題レポート 20% 課題 10%

#### 【教科書】

吉田幸雄 他著 「医動物学 改訂8版」 南山堂 2023年

#### 【参考書】

平山謙二 著「最新臨床検査学講座 医動物学 第2版」 医歯薬出版 2021年

吉田幸雄 原著「図説人体寄生虫学 第10版」 南山堂 2021年

#### 【備考】

クリッカーを使用した双方向型授業を行う。

Google Form を利用して学習課題を提示する。

#### 【学修の準備】

教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。（80分）

講義で学習した部分について理解しておくこと。（80分）

#### 【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。